

以下、本文-----

膵癌組織診検体を用いた化学療法効果予測因子の検討

1. 研究の対象

当院組織診診断にて膵癌と診断され、2013 年 12 月以降に抗がん剤による治療を受けた方

2. 研究目的・方法

膵癌はがんの中では 4 番目の死亡原因となっています。膵癌は他臓器癌と比べて予後が不良で化学療法の抗腫瘍効果にも個体差が大きいです。治療効果を予測する因子については十分な検討がなされていません。そのため、切除不能膵癌と診断され当院で抗がん剤による治療(化学療法)を施行した症例について、EUS-FNA や肝腫瘍生検などで得られた組織診検体を用いて、抗がん剤治療効果予測につながる可能性のある分子に関する免疫染色などの検討を行います。得られた結果と臨床経過・治療効果等との対比を通じて治療効果予測マーカーを同定することを目的としています。

3. 研究に用いる試料・情報の種類

情報：患者背景、検査結果、抗がん剤治療の治療歴・治療効果、生存期間 等

試料：当院にて EUS-FNA、胆管生検、肝腫瘍生検、消化管生検等により検体採取され、膵癌の病理組織診断目的に作製されたパラフィンブロック

4. お問い合わせ先

本研究に関するご質問等がありましたら下記の連絡先までお問い合わせ下さい。

ご希望があれば、他の研究対象者の個人情報及び知的財産の保護に支障がない範囲内で、研究計画書及び関連資料を閲覧することが出来ますのでお申出下さい。

また、試料・情報が当該研究に用いられることについて患者さんもしくは患者さんの代理人の方にご了承いただけない場合には研究対象としませんので、下記の連絡先までお申出ください。その場合でも患者さんに不利益が生じることはありません。

照会先および研究への利用を拒否する場合の連絡先：

大阪国際がんセンター 肝胆膵内科 池澤 賢治

住所：〒541-8567 大阪府中央区大手前3-1-69

電話：06-6945-1181

様式第 1-4 (2018. 4. 1 版)

研究責任者：

大阪国際がんセンター 肝胆膵内科 池澤 賢治

住所：〒541-8567 大阪市中央区大手前3-1-69

電話：06-6945-1181

-----以上